

第80回えいが部「ブリキの太鼓」(1981年)

1954年、精神病院の住人である30歳のオスカル・マツェラートが看護人相手に自らの半生を語るという形で物語は進行していく。体は幼児で、精神年齢は成人のオスカルは、冷めた視点で世の中を見つめ、その悪魔的所業で、自分を愛してくれている周囲の人間を次々に死に追いやる良心を持たない人間として描写されているが、最終的に自分を保護してくれる人間がいなくなったことに気が付き愕然とすることになる。

オスカルは誕生時に既に知能は成人並みに発達をとげ、かつ自分の成長を自身の意思でコントロールする能力を備えていた。物語は1899年のジャガイモ畑における祖母の妊娠に始まり、1924年のオスカル誕生に至る。オスカルは自分が成長することを恐れていたが、父親であるアルフレートが彼が3歳になった時、ブリキの太鼓を買い与えるとの言葉を聞き、3歳までは成長することにした。3歳の時、父親が地下室に降りる床の扉を閉め忘れたことを勿怪の幸いに、故意に地下に転落し、大人たちにそれが原因で成長が止まったと信じ込ませることにした。オスカルの母親であるアグネスは何かというこのことで夫であるアルフレートの不注意を責め、それにより夫婦間に亀裂が生じるようになる。オスカルは声帯から発する超音波でガラスを破壊する能力を身につけ、様々な問題を起こしていく。息子の奇行に悩み、その将来を慮ったアグネスは、精神を病み過食症となり、自ら命を絶つ。

局外者であるオスカルの眼を通し、ナチ党政権前後におけるダンツィヒ自由市の小市民的心性、戦前・戦中・戦後の遍歴などを描く。

原作：ギュンター・グラス

- ・『ブリキの太鼓』(Die Blechtrommel (1959)、高本研一訳、集英社) 1972、のち文庫
- ・『猫と鼠』(Katz und Maus (1961)、高本研一訳、集英社文庫) 1977
- ・『犬の年』(Hundejahre (1963)、中野孝次訳、集英社) 1969
- ・『箱型カメラ』(Die Box (2008)、藤川芳朗訳、集英社) 2009.11

監督：フォルカー・シュレンドルフ

- ・テルレスの青春 Der Junge Törless (1966年)
- ・セールスマンの死 Death of a Salesman (1985年) テレビ映画
- ・侍女の物語 The Handmaid's Tale (1990年)
- ・9日目 ～ヒトラーに捧げる祈り～ Der neunte Tag (2004年)
- ・男と女、モントーク岬で Return to Montauk (2017年)

主演：オスカル・マツェラート (ダーフィット・ベンネット)

- ・狼獣たちの熱い日 (Dog Day) (1984年) (※日本未公開)
- ・レジェンド/光と闇の伝説 (1985年)
- ・セレブの種 (2004年)
- ・バトル・オブ・ライジング コールハースの戦い (2013年)

マリオ・アドルフ

- ・8/15 08/15 (1954年)
- ・女と男 Mädchen und Männer (1957年)
- ・スパイ・ゾルゲ / 真珠湾前夜 Qui êtes-vous, Monsieur Sorge? (1961年) 共演：岸恵子、小沢栄太郎
- ・モモ Momo (1986年)